

罌粟燒ケシといふものすくなくなれり、醒が井餅も、近ごろ江戸にて、五色かき餅など、て有しが、售ざるにやなくなりぬ、寛永發句帳に、珠さかり過て色やさめが井もちつ、じ雪燒、氷燒は輕やきの白色なるをいふなるべし、江戸名物鑑に寛永初めより、明木葉せんべい、歌せんべい、百人一首なり、又茗荷屋の輕燒き、皆にくへと誓願たてし輕燒のてんと身帶のぼるめうがや、は見えたり物、其外吉原卷煎餅、淺草餅など出たり、菓子屋は上野山下の金澤のみなり、

〔塚鑑下〕鬼煎餅

海會寺前、鬼煎餅ト云事ハ、或人ノ被仰シハ、伊勢物語ニ、鬼一口ト云縁ヲ取テ、小ヲ云ト也シニ、近年ハ鬼ト云ハ無散氣物ト心得テ、殊ニ大ニ拵テ、鬼ト云名ニ合スルト見ヘテ燒誤リ、詩人ハ煎餅ヲ仙袂ト書リ、

〔江戸總鹿子六〕槿煎餅

北八丁堀同心町

藤屋清左衛門

めり安煎餅

下谷池のはた

葛煎餅

本庄馬場

〔武江年表五〕此年間延享記事

延享二年の春、江戸の流行物を集めたる句集あり、時津風と題す、中其内を撰て目次のみを左にしるす、略竹村煎餅、中木葉煎餅、

〔武江年表六〕此年間永安記事

安永十年、俳人提亭の撰たる種おろしと云句集に載る所の、其時代のはやり物商物目錄左に略記す、中煎餅てりふり町翁吉原き、略煎餅ねたやげん堀羽衣、

〔江戸町中喰物重寶記〕うすゆきせんべい

おわり町壹丁目

いせや治郎兵衛